



はじめに

特別区全国連携プロジェクト令和7年度第2回全国連携展示では、プロジェクト賛同自治体である大阪府堺市と連携し、堺市の紹介や特別区との共通点、連携事業の実績について展示します。

堺市は、特別区で実施されているイベントやフェスタにブース出展し、特産品販売や堺打刃物の見本展示、包丁の研ぎ方教室等を通して、特別区との連携交流を深めています。今後も特別区と大阪府堺市の連携をより一層深くし、特別区全国連携プロジェクトを盛り上げてまいります。

本プロジェクトが、全国の様々な地域との連携・交流を深めていることをご覧ください。



堺市のプロフィール ①

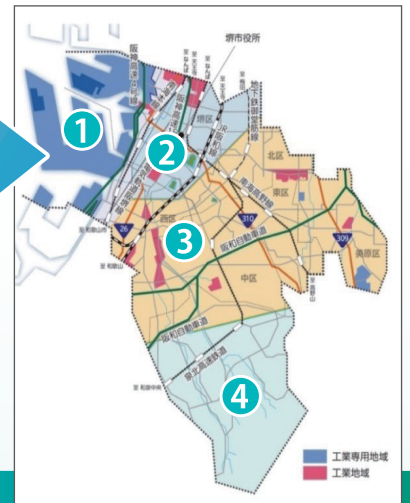


■ 堺市は、大阪府で人口が第二の政令指定都市です

※人口約80万人≒世田谷区 約93万人、練馬区 約75万人、大田区 約74万人

■ 関西圏2千万人の巨大消費地のほぼ中心に位置しており、海外・国内主要地域への利便性が極めて高い陸・海・空の交通ネットワークを有します

■ 新大阪駅や関西国際空港からも約30分とアクセス抜群です



堺市のエリア特性

① 堺市のエリア特性

- 大規模製造業、中小企業製造業団地が立地する産業地域
- 近年では、環境関連産業や大規模物流施設の集積が進む



② 都心市街地部

- 古くからの市街地で、商業、業務地が形成
- 北部、南部には機械・金属関連の工業集積地も存在



③ 内陸部

- 毛穴地区、美原地区には中小企業を中心とした工業集積地が形成
- 新大阪に直結する大阪メトロ御堂筋線の沿線には、商業・業務地が形成



④ 丘陵部

- 1960年代後半以降に開発された住宅地（泉北ニュータウン）
- 大阪府で産出額第1位を誇る本市の中心的農業地域



堺市のプロフィール ②

堺市の概要

人口総数	803,898人	製造品出荷額等	4兆4977億円
世帯数	376,376世帯	市内総生産(名目)	3兆6464億円
面積	149.83km ²	海上貨物 (堺泉北港)	輸移出量 1850万ト 輸移入量 3933万ト
人口密度	5,365人/km ²		

■人口総数、世帯数、面積、人口密度は、令和7年7月1日現在の数値

■製造品出荷額等は「2023年経済構造実態調査」の数値

■市内総生産は、「令和3年度堺市民経済計算」の数値

■輸移出量及び輸移入量は、「令和5年大阪府港湾統計」の数値

■堺泉北港は国際拠点港湾に指定

堺市の注目事業

■ガス気球事業

- 堺市には、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の構成資産である仁徳天皇陵古墳をはじめとした多くの古墳があり、上空からその雄大さを多くの方に体感いただくために、令和7年10月4日からガス気球を運行
- ガス気球を運行する大仙公園における観光案内機能の充実やガス気球搭乗と茶の湯や伝統産業などの体験をセットにしたツアー造成などに取り組むことで、より多くの方に堺市を訪れていただき、持続可能な観光振興と地域経済の活性化を図る



■堺旧港における交流空間の創出

- 堺旧港は主要駅である堺駅からすぐの場所に位置し、江戸時代の港の形をそのままに親水護岸が整備された貴重な海辺空間。中世には国際貿易都市として「黄金の日日」と称されるほどの繁栄を支えるなど、堺の歴史を紡いできた
- 令和7年3月にホテルやレストラン等からなるアーバンリゾート「ポルトマール」が開業。また護岸を活用したイベント「乙姫の休日。」を開催し、様々な料理や音楽と楽しみながら憩い・滞在できる空間を創出するなど、堺旧港の認知度・魅力向上に取り組んでいる



堺市はこんなところ

堺の歴史

■仁徳天皇陵古墳のある街

- 鍵穴のような形の前方後円墳
- 甲子園球場約12個分の広さは、5世紀の技術で1日最大2千人が働いても15年8カ月かかると言われており、当時の「大王」の権力が絶大だったことがわかる



■貿易都市として栄えた街

- 中世には自治都市として繁栄し「東洋のベニス」とも称される
- 1550年にはイエズス会の宣教師、ザビエルが来堺



堺が誇る偉人

■行基 民衆の救済に生涯を捧げた大僧正

■千利休 茶道を大成したわび茶の祖



※特別区にゆかりのある偉人

■河川慧海

■与謝野晶子

堺で受け継がれる匠の技

■鉄砲・包丁・自転車

- 種子島に伝来した鉄砲は堺で作られ広まる
- 南蛮渡来のタバコが栽培され、葉を刻む包丁の需要が増えたため、堺製のタバコ包丁がその切れ味の鋭さから一世を風靡
- 600年の歴史を持ち、鍛冶・刃付け・柄付けの分業制により職人が一本ずつ丁寧に手打ちで仕上げる「堺打刃物」は、その品質と切れ味の良さから世界中の料理人からも愛用されている
- 金属加工の豊かな経験と高度な技術は、自転車のフレームやパーツ製作にも活用されている



百舌鳥(もず)古墳群築造や鉄砲鍛冶などにより培われた**匠の技**は、
刃物や自転車をはじめとする**伝統産業**に受け継がれている

魅力あふれる歴史文化

■ 堺市は、世界遺産をはじめとする類稀な歴史文化資源を大切にしながら、「未来を創るインベティブ都市」として発展する都市をめざしています。

百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録

- 世界三大墳墓のひとつである「仁徳天皇陵古墳」をはじめとする百舌鳥・古市古墳群が令和元年7月に世界遺産に登録された
- 超高精細な8K空撮映像等で、古墳群の雄大さや堺の歴史文化を迫力ある映像で体感できる百舌鳥古墳群ビジターセンターが、令和3年3月にオープン
- 令和7年10月からガス気球により、古墳の雄大さを上空から眺望できる取組を実施



百舌鳥古墳群ビジターセンター
シアター



町家歴史館(山口家住宅・鉄炮鍛冶屋敷・清学院)

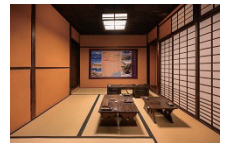
- 江戸時代の町割りが残る環濠北部エリアの歴史や文化を伝える施設
- 国内でも数少ない江戸時代初期の町家である山口家住宅、全国で唯一残る江戸時代の鉄炮鍛冶の作業場兼住居である鉄炮鍛冶屋敷、修験道の道場で日本人で初めてヒマラヤを越えてチベットに入った河口慧海ゆかりの清学院の3館で構成
- 令和6年3月に開館した鉄炮鍛冶屋敷では実物資料の展示や空間再現展示、体験コンテンツを通して鉄加工の歴史を体感



山口家住宅
(重要文化財)



鉄炮鍛冶屋敷
(市指定有形文化財)



清学院
(国登録有形文化財)

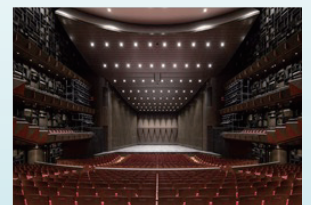
大浜だいしんアリーナ(大浜体育館)

- 最大約3,000席のアリーナなどを備えた施設が令和3年4月にオープン
- 大アリーナ、小アリーナ、放送室、車椅子用観覧席、更衣室、プロ仕様更衣室があり、プレーヤー、観覧者ともに快適にスポーツを楽しむことが可能
- 緑り広げられる熱戦を観客として、大勢の観客の前で奮闘するプレーヤーとして、醍醐味を味わえる大空間が特徴



フェニーチェ堺(堺市民芸術文化ホール)

- 芸術文化の創造・交流・発信の拠点となる施設
- オーケストラやオペラ、バレエ、演劇、ポップスなど優れた舞台芸術、多彩な公演を行い、様々な芸術文化の発表や活動の場として利用が可能(令和5年度来場者数:約35.6万人)
- 2,000席を有し舞台機能なども充実した大ホールをはじめ、312席収容の小ホールや大・小スタジオ、文化交流室、多目的室、交流・創作ギャラリー、展望ガーデン、空中歩廊などを備えた施設



「サイクルシティ堺」への挑戦

～堺の自転車文化を未来へ継承～

堺の歴史・文化の象徴でもある“自転車”を活用し、市民の健康増進や子どもたちの体力向上をはじめ高齢者や障害者の社会参加などの視点も取り入れ、都市魅力の向上を図ります。

堺市のPRポイント

堺と自転車

世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」を築造するための鉄加工技術に堺の自転車産業のルーツあり

SAKAI散走

自転車で街を巡り、歴史・文化や伝統産業、食に触れる自転車の新しい楽しみ方を創出

サイクルスポーツ

ツアー・オブ・ジャパン堺ステージやBMX等の迫力ある自転車競技大会の開催

自転車の歴史・文化

国内唯一の自転車博物館「シマノ自転車博物館」を拠点とした自転車の歴史・文化の発信



取組内容 自転車を活用した多彩な魅力創出

■自転車×健康

- ・SAKAI散走による健康増進
- ・シェアサイクルによる自転車利用促進
- ・サイクルスタンプラリー



■自転車×スポーツ

- ・ツアー・オブ・ジャパン堺ステージの開催
- ・全日本自転車競技選手権BMXレーシングの開催
- ・堺プレイヤーズと連携したサイクルツーリズム



■自転車×歴史・文化

- ・シマノ自転車博物館での情報発信
- ・「堺オープンファクトリー散走」(工場見学・体験ツアー)
- ・堺産自転車タクシーによる自転車観光



■自転車×アート

- ・サイクルアートを活用した魅力発信
- ・「アート散走」(芸術施設ツアー)
- ・子どもたちの自転車絵画コンクール



阪堺電車

～チンチン電車の愛称で親しまれる路面電車～

阪堺電車は、大阪で唯一残る路面電車として、110年を超える歴史を誇ります。

大阪市内では、通天閣のふもと・恵美須町やターミナル駅の天王寺駅前から発車し、千年の時を超えて海の守り神として信仰されてきた住吉大社の鳥居の前を通過。大和川を越えて堺市に入り、かつて「黄金の日日」と称されるほど中世に栄えた堺の都心部・環濠エリアを貫きます。終点は、美しい松林が広がり、市民の憩いの場として親しまれる浜寺公園の最寄り駅・浜寺駅前です。沿線では、都会の賑わいから住宅地の穏やかな風景まで、四季折々に移り変わる多彩な景色を楽しむことができます。歴史と文化、そして人々の暮らしをつなぐ、魅力あふれる路面電車です。



これらの路面電車が走っています。

自動運転を活用した 便利・快適な移動環境の構築

堺市では、人口構造の変化や働き方の多様化などに対応するため、公共交通の利便性向上やバリアフリー化などを通じて、便利・快適な移動環境の構築をめざすSMI(堺・モビリティ・イノベーション)プロジェクトに取り組んでいます。

SMI都心ラインの整備イメージ



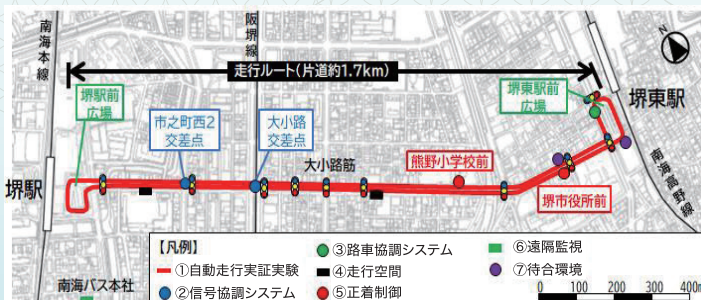
堺都心部とSMI都心ラインの位置

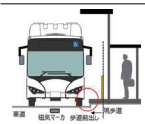
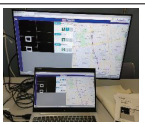


SMIプロジェクトでは、堺都心部の大小路筋において、既存のバス交通に自動運転などの先進技術を導入することでバス運転士不足へ対応しつつ、バリアフリーな乗降の実現や、路車間通信による安全性の向上などをめざした「SMI都心ライン」の導入に向けた取組を進めています。

令和7年度実証実験の概要

堺市では、令和12(2030)年度における無人自動運転サービスの実現をめざし、今年度(令和7年度)から実証実験に取り組んでいます。



①自動走行	②信号協調システム	③路車協調システム	④走行空間整備
 レベル2による走行	 大規模交差点の安全な通過	 交差点右折時の死角カバー	 停車帯を拡幅し走行空間を確保
⑤正着制御	⑥遠隔監視	⑦待合環境	⑧3Dシミュレーション
 正着によるバリアフリーな乗車	 車内外の遠隔監視、相互連絡	 公共空間を活用し滞留空間、地域や交通の情報発信	 実証実験で検証困難な事象をシミュレーション

連携実績

港区

R6年・R7年

「全国交流物産展in新橋」や「高輪地区まつり」等、港区内のイベントに堺ブースを出展

堺の食や物産の販売により、プロモーションを実施しました。

R7年 4月9日～6月18日

三田図書館にてパネル展「万博きたなら堺もきてな」を開催

万博開催に合わせ、堺と万博を紹介するパネル展を実施しました。

R6年・R7年

ワーケーション事業による港区事業者の宿泊を伴う来堺

計6者の事業者が、堺市で仕事をし、市内企業や観光地も訪問しました。



文京区

R7年 6月21日

堺打刃物 伝統工芸士による「包丁の研ぎ方教室」初開催

参加者が持参した包丁を研いだ後、パンや野菜などを切って、切れ味を実感しました。完成したサンドイッチなどを囲み、伝統工芸士と交流も深めました。

R7年 9月9日

食育イベント「ハッピーベジタブルフェスタ」に初出展

切れ味抜群の「堺打刃物」で野菜をおいしく！をテーマに、堺打刃物の種類見本の展示や、刃物制作の様子を動画で紹介しました。



台東区

R7年 8月7日～12日

「ふるさと交流ショップ台東」に初出店

堺で収穫される「泉北レモン」を使用した調味料やお菓子をはじめ、様々な堺産品を販売しました。



墨田区

R7年 7月30日・31日

「すみだ錦糸町河内音頭大盆踊り」に初出展

R7年 8月1日

「墨田区民納涼民謡大会&東京ソラマチ夏まつり」に初出展

両イベントにおいて観光ガイドブックなどと一緒に、堺の企業「タマノイ酢」のお酢ドリンクを配布し、堺のプロモーションを実施しました。



品川区

R7年 9月15日

「ウーマンズビジネスグランプリ in 品川2026 キックオフサミット」に参加

堺市の女性起業家2名が事業ピッチを行い、堺市職員が女性起業家に向けた市の取組を紹介しました。



大田区

R6年 2月22日・23日

**ノウフク連携マルシェ
「多摩川ともだち記念日」に初出展**

ゆるキャラ撮影会では、大田区の「はねぴょん」と一緒に、堺市の「ハニワ部長」、「ミャクミャク」が登場しました。また、日本大学のインターン生による「堺市PRブース」では、手作りの映えスポットマップの配布や、めりえワークショップを実施しました。



世田谷区

R7年 8月2日・3日

「せたがやふるさと区民まつり」に初出店

堺産農産物「堺のめぐみ」に認定された小松菜、オクラ、ナスといった新鮮野菜と、堺の伝統産業である注染技法で染められた手ぬぐいを販売しました。

R7年 12月15日

「世田谷のボロ市」ふるさと物産展に初出店

堺産農産物「堺のめぐみ」に認定された新鮮な小松菜、水菜を販売しました。



杉並区

R6年 11月9日・10日

「すぎなみフェスタ」に初出展

ミャクミャクが登場し、「万博来たら堺も来てな」とプロモーションを実施しました。古墳・ハニワグッズや和菓子など堺産品の販売も行いました。

R7年 11月8日・9日

「すぎなみフェスタ」に2年連続出展

堺出身の店主によるたこ焼きの販売と、堺市出身で終焉の地が杉並区である与謝野晶子を紹介するパネル展示を実施しました。



堺市

大浜公園相撲場

■古くからアマチュア（学生）相撲の大会が行われ、幾多の好勝負と名選手をその歴史に刻んできた相撲場です。

第1回全国学生相撲選手権大会が大浜で大正8年に開催され、第64回大会からは大浜公園相撲場と両国国技館において隔年開催されています。現在では、数多くの全国大会・国際大会の舞台となり、「アマチュア相撲の聖地」と呼ばれています。

相撲場は約4,200㎡の敷地に3つの土俵を備え、全国でも有数の規模を誇る本格的な施設で、相撲の迫力や伝統を間近で感じられるのが大きな魅力です。

同相撲場の魅力を多くの方に知ってもらうため、相撲場の見学や、土俵上での塩まき体験などができる相撲体験事業も実施しています。



▶学生横綱には、堺市の水野鍛錬所で製造された堺大浜記念刀が授与されます



墨田区

どんどこ！ 巨大紙相撲

～北斎すみゆめ場所～

■すみゆめ実行委員会が企画・実施している主催企画「どんどこ！巨大紙相撲」では、ホンモノサイズの力士を作って技と個性を競います。墨田区内4つの部屋（東向島・亀沢・東駒形・キラキラ橋）で、ダンボールを使って大きな力士を作るワークショップ「巡業」を行います。仲間と一緒にアイデアを出し合って作った、個性豊かなオリジナルの力士たちが集まる「本場所」では、どんどこ！土俵をたたいて最強力士を決めていきます。親方による解説、呼出の太鼓や相撲甚句も披露されます。

令和7年度は12月21日（日）に曳舟文化センター・ホールで本場所が行われました。

協力：公益財団法人日本相撲協会

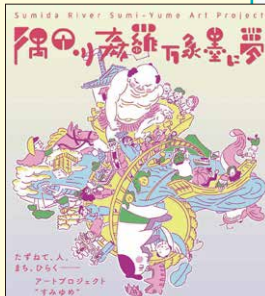


「隅田川 森羅万象 墨に夢」 (通称：すみゆめ)

墨田区は、偉大な芸術家である葛飾北斎を区民の誇りとして永く顕彰するとともに、地域の産業や観光へ寄与する地域活性化の拠点として、平成28年11月22日に「すみだ北斎美術館」を開設しました。

「隅田川 森羅万象 墨に夢」(通称：すみゆめ)は、すみだ北斎美術館の開設にあわせて平成28年にスタートしたアートプロジェクトです。

森羅万象を追い求めた葛飾北斎が90年の生涯を過ごした「すみだ」で、墨に描いた小さな夢をさまざまなたちの手で色付けするように、あらゆる表現を行っている人たちにつながりながら、この地を賑やかに彩っていくことをめざしています。



主催：「隅田川 森羅万象 墨に夢」実行委員会、
墨田区
HP: <https://sumiyume.jp/>

堺市

百舌鳥古墳群



世界遺産 World Heritage Site of Osaka

百舌鳥・古市古墳群
Mozu-Furuichi Kofun Group

百舌鳥古墳群ビジターセンター



仁徳天皇陵古墳近くにある無料のガイダンス施設です。
8Kの高精細映像で世界遺産と堺の歴史を体感できるシアターや、古墳グッズの販売コーナーもあります。

詳しくは [ビジターセンターHP](#)

気球



令和7年10月から堺市大仙公園内でガス気球運行が始まりました。仁徳天皇陵古墳をはじめとする百舌鳥古墳群を空から体感できます。

詳しくは [おおさか堺バルーンHP](#)

大田区

亀甲山古墳・宝萊山古墳



左・亀甲山古墳／右・宝萊山古墳

多摩川流域には多くの古墳が点在しており、大田区でもたくさんの古墳を見ることができます。多摩川に近接する多摩川台公園には、100メートル規模の前方後円墳である亀甲山古墳や宝萊山古墳をはじめとした古墳群があります。また、園内には実物大の古墳をイメージしたジオラマが象徴的な古墳展示室もあり、古墳についてわかりやすく学ぶことができます。多摩川台公園を散歩しながら「おおたの古墳」を巡り、古墳時代に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



古墳展示室



古墳展示室内のジオラマ

世田谷区

東京都 指定史跡
野毛大塚古墳

野毛大塚古墳は帆立貝形古墳(全長82メートル、後円部直径68メートル、高さ11メートル)で、同種の古墳として関東では最大級の規模を誇っています。また、周囲には馬蹄形の濠がめぐり、これを含めた全長は104メートルになることがわかっています。なお、古墳の表面は葺石で覆われています。

後円部の頂上には遺体を埋葬する施設である主体部が4カ所設けられています。中央の第1主体部からは関東地方最古の鉄製甲冑や石製品など、多種多量の副葬品が出土しています。特に甲冑をはじめとする多量の鉄製武器・武具の副葬は、帆立貝形の墳形とともに、百舌鳥・古市古墳群の中・小規模古墳と共通した様相を示しています。そのため、畿内王権と深く結びついた南武蔵地域の大首長墓と考えられ、当時の政治・社会の展開を考える上で重要です。



復元後全景



堺市

河口慧海生誕の地

かわぐち え かい

■ 河口慧海(慶応2-昭和20年(1866-1945))

は、堺山伏町(現大阪府堺市堺区北旅籠町西3丁)に樽職人の息子として生まれました。

25歳で得度し僧侶となりますが、漢訳仏典の限界を感じ、釈迦の教えを明らかにするため

には、サンスクリット原典とチベット語訳仏典を得る必要があると考えます。

慧海は明治30年(1897)から約6年をかけてインドからネパールを経由して日本人として初めてヒマラヤ山脈を越え、当時鎖国下にあったチベットの首都ラサに単独で到達しました。そのときの様子を記した『西藏旅行記』は大ベストセラーとなり英訳本も刊行されました。明治37年(1904)から約11年かけて再びインド・ネパール・チベットを旅行しました。

2度にわたる旅行から帰国した慧海は昭和5年(1930)に世田谷区代田に居を定め、自らが提唱する「在家仏教」を弘める一方、蔵日辞典の編纂にあたりました。

清学院(堺市堺区北旅籠町西1丁3-13)は、もとは修験道の道場で慧海も学んだ寺子屋を営んでいました。現在は堺市立町家歴史館として一般公開し、慧海に関する資料を展示しています。



清学院



若き日の河口慧海

世田谷区

河口慧海晩年の地

堺市で生まれ、探検家としても知られる仏教学者の河口慧海は、晩年を世田谷区代田で過ごしました。住居跡とされる代田の終焉の地には、平成17年(2005)2月に慧海の没後60年を記念して、有志により顕彰碑が建てられています。また、世田谷区奥沢にある九品仏浄真寺には、昭和32年(1957)の慧海の13回忌に際して、門弟と親戚等が建てた「河口慧海師碑」が本堂脇に残されています。

建碑関係資料は、現在堺市博物館に所蔵されています。



顕彰碑(代田)



顕師碑(浄真寺)

堺市

堺奉行 喜多見勝忠

き た み かつ ただ

喜多見勝忠(1568～1628)は元和4年(1618)1月から寛永4年(1627)12月まで堺奉行を務めた人物です。在任中は善政を敷き、市中には10年間訴訟を起こす者がいなかったとも伝えられます。また、沢庵宗彭による南宗寺(堺市堺区南旅籠町、仏殿・山門・唐門が重要文化財)の復興を支援し、同寺には現在も勝忠の位牌堂である夢界堂が残っています。

堺で没し、南宗寺で葬送された彼の墓所は現在世田谷区喜多見の菩提寺、慶元寺に所在し、一族の墓石や供養塔などとあわせて世田谷区指定史跡となっています。



喜多見勝忠肖像
〔『堺市史第7巻』より〕

世田谷区 喜多見氏ゆかりの文化財

喜多見氏(江戸氏)は関東の武家の名門で、室町時代の中頃、旧領江戸庄を離れ現在の世田谷区喜多見に移住したと伝えられています。その後、後北条氏にかわって関東に入国した徳川家康に取り立てられ、江戸勝重(のち喜多見勝忠)は御家人となります。元和4年(1618年)に堺奉行となりました。勝重の孫・重政は5代将軍家綱の側用人となり、河内、摂津、武蔵喜多見に合わせて2万石を与えられた大名になりました。

慶元寺・【区指定史跡】喜多見氏(江戸氏)墓所

慶元寺は永劫山華林院と号す浄土宗の寺院で、喜多見(江戸)氏の菩提寺です。寺の院号華林院は喜多見勝忠の法名「華林宗珍」によるものです。これは沢庵が授けたものです。

墓所には寛永4年(1627)に堺で没した喜多見勝忠や一族の碑が置かれています。



撮影：米畑勝行

【区指定有形文化財】喜多見氷川神社石鳥居

喜多見氷川神社は喜多見(江戸)氏が氏神としてまつた古社です。

参道の中ほどに建つ石鳥居は、承応3年(1654)に喜多見勝忠の子重恒と重勝の兄弟によって建立されました。鳥居の石材は関西方面から運ばれたといわれています。都内でも最古級の鳥居です。



撮影：清水襄

堺市

与謝野晶子生誕の地

明治11年(1878)12月7日、現在の堺市堺区甲斐町にあった和菓子商「駿河屋」の三女として生まれました。

家業を手伝いながら文学会に入会するなど多感な少女時代を堺で過ごします。22歳で上京し、歌の師である与謝野寛(鉄幹)と結婚して12人もの子どもの母となりました。代表作には、歌集『みだれ髪』や詩「君死にたまふことなかれ」があります。

歌人として有名ですが、その活動は詩歌にとどまらず『源氏物語』の現代語訳や社会問題、教育問題にかかわる評論など、その表現世界の幅を広げてきました。特に評論文は、現代にも通じる普遍的なメッセージを発信し続けています。

昭和17年(1942)5月29日に63歳の生涯を終えます。毎年堺では命日に、「白桜忌」という法要が営まれています。

生家跡には「海こひし潮の遠鳴りかぞへつつ少女となりし父母の家」の歌碑があり、晶子と寛を引き合わせたといわれる覚応寺、二人がはじめてデートした浜寺公園など、エピソードがつたわる地と晶子歌碑巡りを楽しむことができます。



生家跡



利晶の杜



大正期の晶子

晶子・寛と子どもたち
大正6年(1917)文化学院教授と女学部6年生らと写る
晶子(後方で階段の手すりに腕をかけて
いるのが晶子)
堺市博物館蔵

堺ゆかりの千利休と与謝野晶子をテーマにした文化観光施設です。2人の人生や功績が紹介されており、茶の湯体験や、市内観光の情報が豊富に取り揃っています。

◀ 晶子に関する見どころ

- ① 晶子の在りし日の姿を動画でご覧いただけます。
- ② 「源氏物語」や自作の短歌を朗読する肉声をお聴きいただけます。
- ③ 晶子の生家「駿河屋」をほぼ実際のサイズで再現しています。

杉並区

与謝野晶子終焉の地

現在、公園となっているこの場所には、明治・大正・昭和にわたり、多くの近代詩歌を残した与謝野寛・晶子夫婦が永住の居として、その晩年を過ごした邸宅がありました。

関東大震災により、晶子は文化学院(千代田区、2018年閉校)に預けてあった『新新訳源氏物語』の原稿を焼失しました。この体験を経て夫婦は震災の被害の少なかった郊外に移ることとし、当時井荻といわれたこの地に土地を得て、昭和2年(1927年)、麴町区富士見町(現・千代田区富士見)から引越してきました。敷地には、大正期に建てられた采花荘^{さいかそう}、秩父連山や富士山、箱根山脈を眺められることにちなむ遙青書屋^{ようせい}の2棟の邸宅のほか、弟子から贈られ、茶室や書斎として使用された冬柏亭^{とうはくてい}がありました。夫婦は友人から贈られた庭木のほか、さまざまな花や植木を植え、四季折々の武蔵野の風情を愛でました。当時の荻窪^{おぎくぼ}と与謝野夫妻は次のように詠んでいます。

大いなる炉の間のごとく武蔵野の冬あたたかに暮るる一日 寛
井荻村一人歩みて蓬生に断たる・路の夕月夜かな 晶子

夫妻は、この家で歌会を催し、『日本古典全集』の編纂や歌誌「冬柏」の編集も行いました。各地へ旅行して歌を詠み、講演も行っていましたが、昭和10年(1935年)3月26日、旅先の風邪から肺炎をおこして入院していた寛は、晶子や子供達、多くの弟子に看取られながら62年の生涯を閉じました。

寛亡きあとの昭和11年～12年(1936年～1937年)頃、晶子は寛が生前に頼まれていた桃井第二小学校校歌の作詞を手掛けました。その関係資料は「与謝野晶子自筆杉並区立桃井第二小学校校歌・関係資料」として杉並区有形文化財に指定されています。その後も、11人の子女の成長を見守りながら各地を旅し、また念願の『新新訳源氏物語』の完成(昭和14年(1939年))に心血を注ぎました。

昭和17年(1942年)5月29日、脳出血で療養していた晶子は余病を併発して、この地で63年の生涯を終えました。



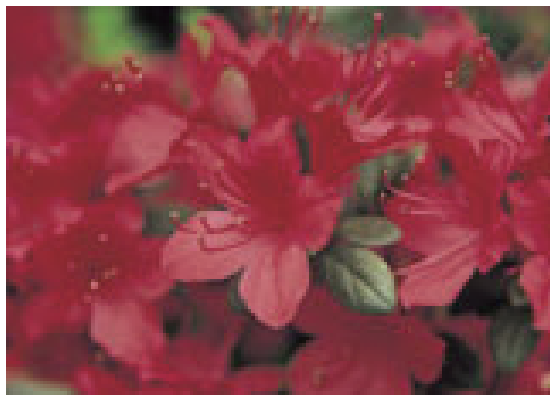
与謝野公園

晶子50歳の誕生日に弟子から贈られた「冬柏亭(とうはくてい)」
現在は、京都の鞍馬寺に移築されている。
堺市博物館蔵

堺市

市の花木：ツツジ

市制100周年を記念し、平成元年（1989年）4月、市民の投票をもとに市の花木を「ツツジ」と決めました。「大阪みどりの百選」の一つである浅香山公苑一帯（浅香山緑道）は、毎年ツツジの見頃には、たくさんの人が訪れ賑わいます。



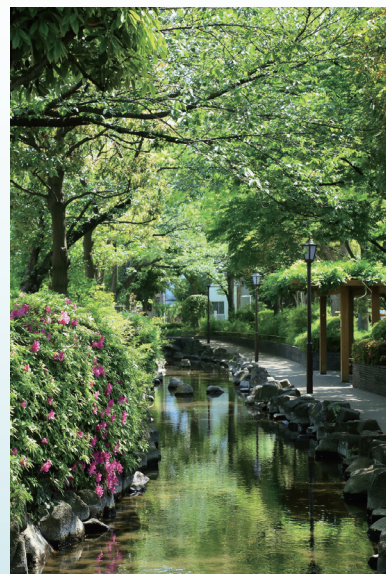
江戸川区

区の花：ツツジ

区は1970年から「ゆたかな心 地にみどり」を合言葉に緑化活動を推進してきました。運動を一層盛り上げようと1978年10月、公募により区の花にツツジを制定し、街路や公園などに植樹しました。春には「つつじ園」（総合レクリエーション公園なぎさ公園内）で約130品種17,000株のツツジが咲き誇ります。



なぎさ公園



小松川親水公園

堺市

匠の技が冴える 伝統産業

堺打刃物

プロの料理人の多くから選ばれているという切れ味鋭い「堺打刃物」は、16世紀にポルトガルから伝わったタバコの葉を切る「タバコ包丁」をきっかけに生まれました。「堺打刃物」は、その優れた切れ味により、後に江戸幕府から「堺極」という印を入れて販売することを認められ、やがて調理用の片刃包丁にも派生していきました。古くから分業制が確立しており、鍛造、刃付け(研ぎ)、柄付けの工程が職人の手仕事によって成り立っています。真っ赤に熱した軟鉄や鋼を金槌などで叩き延ばして鍛える「鍛造」という工程により素材を叩くことで密度が増し、極上の切れ味と耐久性、そして美しさを生み出しています。国の伝統的工芸品に指定されています。



浪華本染め(注染)

「注染」は型紙を使って防染糊を塗る糊置防染法の一つです。和晒の生地の上に一型づつ防染糊をぬり、生地を折り重ねて一度に染料を注ぎ込んで染めますので、量産性・経済的に優れ、手染めの風合いがあること、裏表なく染め上がり、色あせも少ないことが特徴です。



注染の手ぬぐいやゆかたは、第2次世界大戦の戦災により、大阪市内の注染業者が堺に移転したことで、堺の伝統産業として根付き、令和元年には経済産業大臣指定の伝統的工芸品に指定されました。

堺線香

16世紀の終わりに中国から製法が伝わり、日本で初めての線香が作られました。堺は当時我が国有数の貿易港であり、原料の香木が集まりやすかったことや、寺院が多かったことが線香づくりの発展を支えたと思われます。



堺の線香は、選びぬかれた天然の香料の調合が特色で、香の芸術品といわれています。香料の調合率などは、それぞれの製造元の秘伝とされ、時代に合わせて工夫を加えながら受け継がれています。

大阪府の伝統工芸品に指定されています。

堺五月鯉幟

明治初期に名古屋の紙鯉をヒントに大阪において初めて手描きによる鯉のぼりを作ったのが堺五月鯉幟の始まりです。真鯉に金太郎がまたがったデザインと立体的な構造が特徴で、太くつくられたお腹が風を受けて大きくふくらむことでより本物に近い形が作り出されます。数十種類の刷毛と筆、選りすぐりの顔料を使い、下書きなしで描かれる鯉のぼりは、繊細なぼかし、鱗の力強い輪郭など手書きにしかだせない力強さを生み出します。



大阪府の伝統工芸品に指定されています。

堺手織緞通

堺手織緞通は、天保2年(1831年)に、糸物商の藤本庄左衛門が中国緞通、鍋島緞通を参考に製造販売したのが始まりといわれています。明治10年(1877年)に内国勸業博覧会で欧米に紹介されると、日本の重要な輸出品として、生産高を急激に伸ばしました。今では新素材をはじめ、機能やデザインに優れた多種多様な製品が生み出され、堺の新たな数物文化として脈々と受け継がれています。



大阪府の伝統工芸品に指定されています。

江戸川区 伝統産業

江戸風鈴

江戸時代から変わらない製法により一つ一つ手作業で作られています。型を使わず空中でガラスを膨らませる「宙吹き」や、音を良くするために鳴り口をわざと砥石でギザギザに削る仕上げ、内側から行う絵付けが特徴です。

2025年には一般社団法人日本音響学会が選定する「音響遺産」に認定されました。



江戸硝子

江戸時代からの伝統的なガラス製品で、手作業で作られるため、個性的なデザインや深みが感じられる工芸品です。江戸硝子の製作には、色ガラスを被せた器にカット文様を施す技法が用いられています。



江戸組子

釘を一切使わずに、細かく削った木の部材を組み合わせ、様々な模様を作り上げていく組子細工です。欄間や障子などの建具の装飾に使われてきた、日本の伝統的な木工技術です。細工の技術はもとより、緻密さや根気よさが求められ、また木の性質なども熟知していなければならず、建具職人最高の技と言われています。



江戸扇子

江戸時代から伝わる伝統工芸品で、江戸の町人文化で生まれたものです。15本の竹の骨と和紙のみで制作され、パチッと音を立ててきれいに閉じるのが特徴で、寄席などで高座扇子としても使われています。30以上もある制作工程を一人の職人が全て行うことで、こだわりや趣が扇子に表れるのが魅力です。

